

令和4年(2022年)12月8日
厚生委員会
報告事項資料
子ども家庭部子どものしあわせ課

子どもの生活実態調査の中間報告について

1 報告趣旨

令和4年度(2022年度)に実施した子どもの生活実態調査について、分析を委託している都立大学から中間報告が提出されたため、その内容を報告する。

2 報告内容

(1) 調査の概要

ア 目的

八王子市の学齢期の子どもがいる家庭の生活実態や困りごと、経済状況などを具体的に把握し、今後の子ども・子育て世帯に係る施策に反映する。

イ 対象者

八王子市立小学校5年生及び義務教育学校5年生、並びに市立中学校2年生及び義務教育学校8年生、並びにその保護者(以下、小学5年生には義務教育学校5年生を、中学2年生には義務教育学校8年生を含む)。

ウ 実施時期・調査方法

令和4年(2022年)5月、学校配布・学校回収

エ 対象者数及び回収数（率）

	今回調査			（参考）前回（H29）調査		
	対象者数	子ども票	保護者票	対象者数	子ども票	保護者票
全年齢層	8,676	6,611	6,629	9,201	2,872	2,879
	-	76.2%	76.4%	-	31.2%	31.3%
小学5年生	4,408	3,485	3,501	4,813	1,618	1,623
	-	79.1%	79.4%	-	33.6%	33.7%
中学2年生	4,268	3,126	3,128	4,388	1,254	1,256
	-	73.2%	73.3%	-	28.6%	28.6%

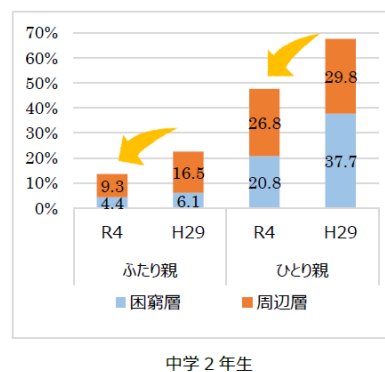
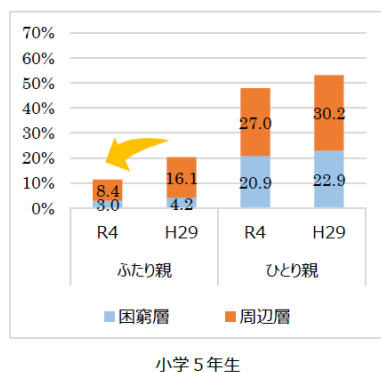
（2）報告の概要

ア 生活困難を抱える子どもの割合

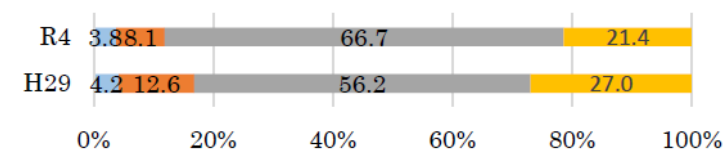
生活困難の割合は、小学5年生で困窮層 3.8%・周辺層 8.1%、中学2年生では困窮層 5.1%・周辺層 9.0%であった。

前回調査に比べ、困窮層・周辺層は少なくなっているものの、依然としてひとり親世帯の困難度は高くなっている。

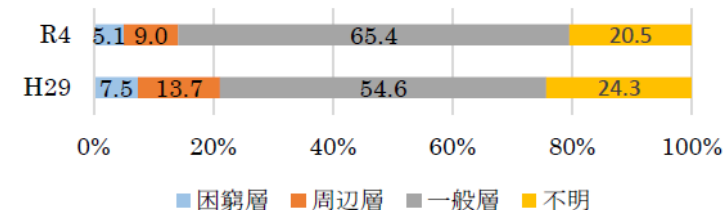
世帯タイプ別の生活困難度（R4、H29）



小学5年生



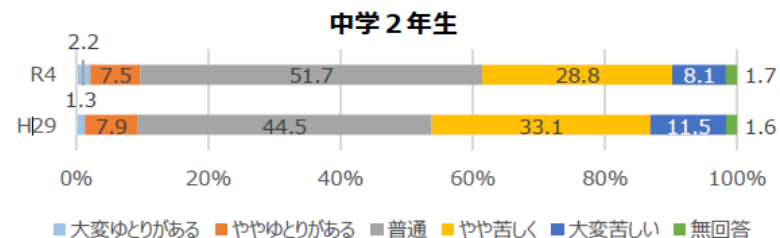
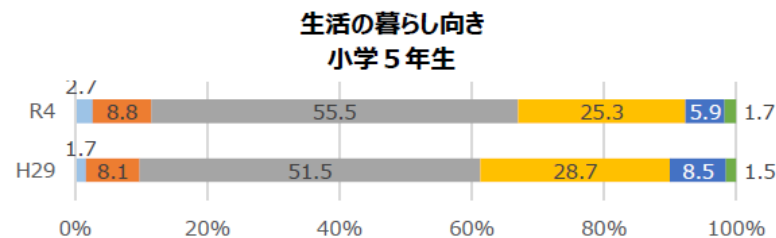
中学2年生



■ 困窮層 ■ 周辺層 ■ 一般層 ■ 不明

イ 家計の状況

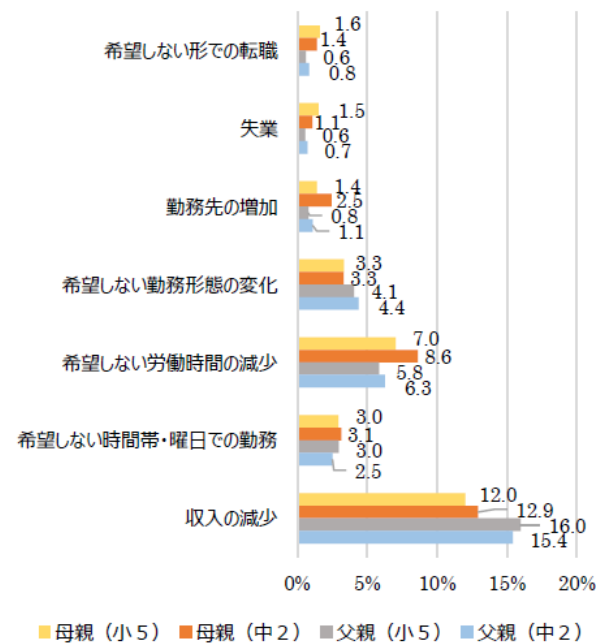
前回調査と比べ、家計の状況が厳しい家庭の割合は少なくなっている。



ウ コロナ禍による親の就労と収入の変化

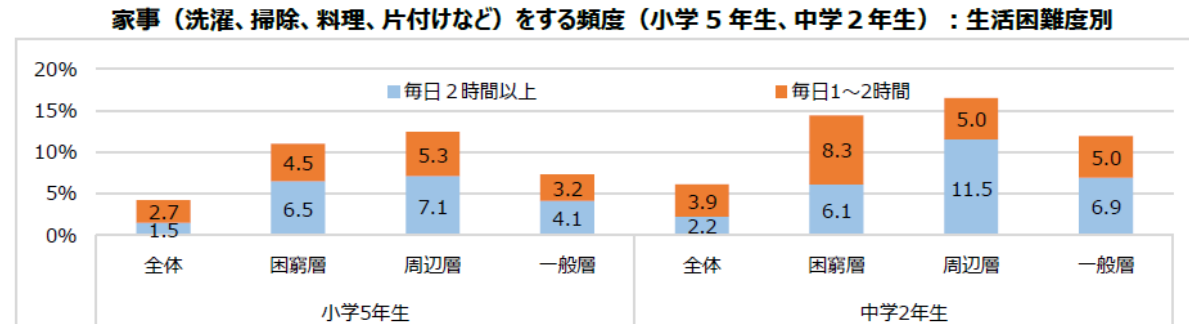
コロナ禍によって母親・父親の12.0～16.0%が収入減少、5.8～8.6%が希望しない労働時間の減少を経験。また、収入の減少等を経験した割合は困窮層、周辺層、一般層の順に高くなっている。

コロナ禍による母親・父親の就労・収入への影響



エ 家事と家族の世話や介護の状況

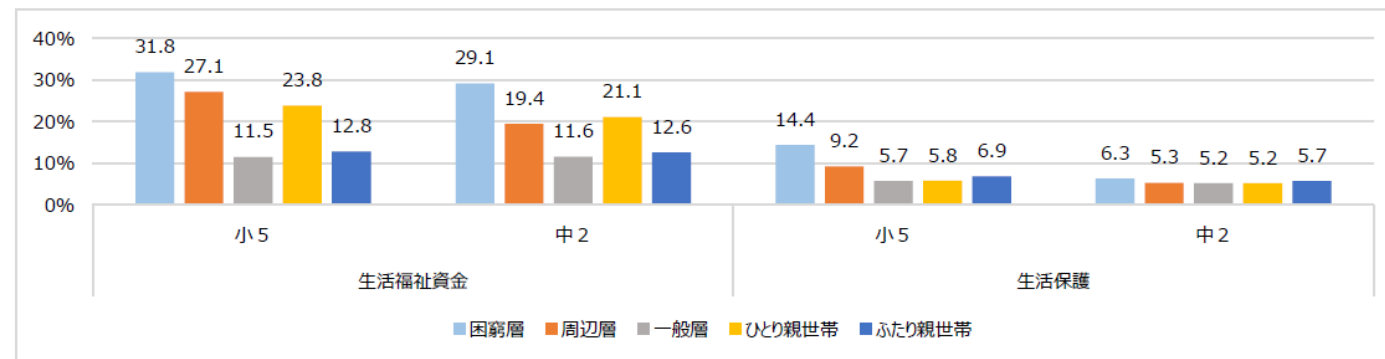
家事を毎日2時間以上する小学5年生は1.5%、中学2年生は2.2%。中学2年生の周辺層では、1割以上が毎日2時間以上家事をしている。



オ 制度の認知状況

生活福祉資金について「全く知らなかった」と回答した方は、一般層、周辺層、困窮層の順に低く、ふたり親世帯に比べひとり親世帯の方が低くなっている。また、困窮層では、約3割が「全く知らなかった」と答えている。生活保護制度について「全く知らなかった」と回答した方は、小学5年生の困窮層で1割を超えている。

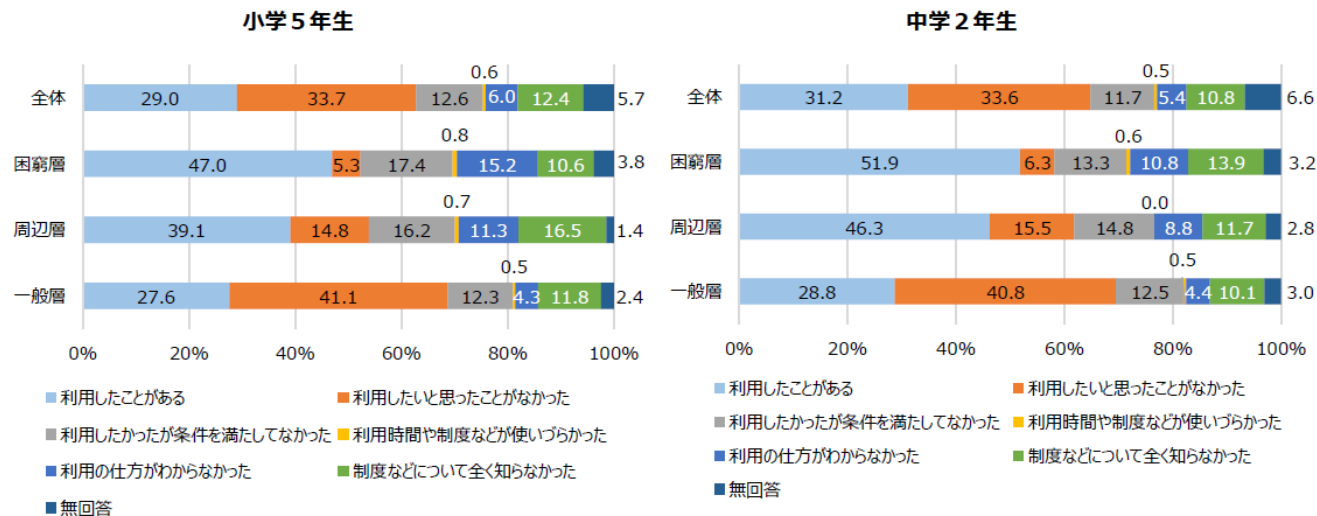
制度を「まったく知らなかった」保護者の割合（小学5年生、中学2年生）：生活困難度別、世帯タイプ別



カ 新型コロナウイルス関連の給付金の利用状況

新型コロナウイルス関連の給付金は、小学5年生世帯の29.0%、中学2年生世帯の31.2%が利用したことがある。利用割合は困窮層、周辺層、一般層の順に高い。一方で「利用の仕方がわからなかった」「制度などについて全く知らなかった」と回答した割合も生活困難層の方が一般層よりも高い。

新型コロナウイルスに関する給付金の利用状況



(3) 報告内容の活用

ア 中間報告で示された課題については、令和5年度（2023年度）当初予算に反映

※一部事業については令和4年度（2022年度）中に実施

イ 令和4年度（2022年度）末に都立大学から提出される報告書をもとに、令和6年度（2024年度）当初予算に反映

※緊急に対応が必要なものは補正予算で対応

ウ 次期子ども・若者育成支援計画（令和7年度（2025年度）～）に反映